

第2510地区 第11グループ

2008~2009

The Weekly Report of

Hakodate North R.C.

函館北ロータリークラブ会報

2008~09年度
国際ロータリーのテーマ

夢をかたちに



2008~09年度
国際ロータリー会長

李 東 建

D. K. Lee

山下清司 会長 テーマ

—— 会員相互の協力、助け合い ——



1月28日 卓話 函館市議会議員 小山 直子 氏

《第2186回例会》 第 28 号 2月4日(水)

本日のプログラム

移動例会「節 分」

於 亀田八幡宮

★会 長 山 下 清 司

★幹 事 成 田 豊

例会場：函 館 国 際 ホ テ ル
例会日：毎週水曜日 12:30~13:30

〒040-0064 函館市大手町5-10

TEL23-5151

事務局：函館市大手町5-10 二チロビル4F

TEL23-3870

お掃除は
プロにお任せ
下さい!

こんなに...!! Clean&Fresh

■ 定期清掃 ■ 日常清掃 ■ 真心清掃 ■

TOTAL SERVICE CLEAN

株式会社

TSC テスコ

函館市海岸町9-18

☎(0138)41-1025

(広告掲載：成田 豊 会員)

函館北ロータリークラブのホームページアドレス <http://www.hakodate-north.org/>

【2月3日現在のアクセス数：7242件(+47件)】

◎ 1月14日出席報告 (柴崎 晃 委員長)

会 員	30名	出席率対象会員	29名
		出席規定免除会員(a)	1名
		出席規定免除会員(b)	0名
当日出席	25名	当日欠席	4名
他クラブ出席	3名	出席合計	28名
出席率	96.55%		

・テレフォンサービス(例会移動案内) 電話 26-3170番

次回・2月11日
プログラム

祝日休会

2月18日
七飯RC合同例会

於 大黒屋旅館 午後6時30分～

2008～2009〈第2185回例会〉第27号

1月28日の記録

◎司 会 山下 清司 会長 ◎斉 唱 我等の生業、四つのテスト

◎会長報告 山下 清司 会長

○国際ロータリー第2510地区渡邊恭久ガバナー・エレクトより2009-10年度テーマが“ロータリーの未来はあなたの手の中に”と決定いたしましたとのお知らせがありました。

◎幹事報告 成田 豊 幹事

○会員推薦がありました。異議の申し立てのある場合は2月3日までに書面で理事会へご提出下さい。
○本日メールボックスに米山記念奨学会へ2008年1月から12月まで特別寄付をいたしました会員へ税金控除の書類をいれてありますのでご確認下さい。

◎親睦活動委員会 高橋 晃 委員

ニコニコBOX投入報告

山下会長・森 会員・柴崎会員・渡部会員・増田会員・小笠原会員・弗田会員

…小山先生を歓迎して。

松見会員…遅くなりましたが、本年も宜しくお願いします。

◎卓話「DIG (防災イメージネーションゲーム) の紹介」 函館市議会議員 小山 直子 氏

D I Gとは Disaster Imagination Game の略で災害図上訓練といい、1枚の地図を5～6人で囲んで行く、誰でも参加できるワークショップ型の防災訓練プログラムです。今日は先日岩見沢で受けてきた訓練の内容をお話します。

(1) 自己紹介

まず最初に今避難所に避難しているという想定で「私は〇〇ができる、小山です」というように、自分ができることを言いながら、自己紹介をします。例えば「私は重い荷物を運ぶことができる〇〇です」「私はトイレ掃除ができる〇〇です」のようにします。このように自己紹介することで、自分も誰かのためになる、誰かの役にたつということを自覚できます。これは子どもたちにとっても幸せなことで、自分も社会の一員として価値のある存在と認めてもらえることはすごく良いことです。

(2) 震度6の地震が発生

早朝に震度6の地震が発生したと想定し、課題が出されます。目をつぶって1分間揺れに耐えています。①揺れがおさまりました、さあ何をしますか、3つ書いてください。②3時間後、何をしますか。③避難することになりました。何をしますか。④避難所へは何を持っていきますか、5つ書いてください。と、次々に課題がだされます。私は一瞬うろたえてしまいましたが、何が正解か、

間違いかではなく、グループ内でそれぞれが記入したことを発表しあいます。先生によると揺れがおさまって家の中を点検するにも、震度6だとガラスが割れて危険なので、枕元にはズック靴か厚手のスリッパを用意して寝るといいそうです。そして、火の元の確認が大事です。阪神大震災では火災により大きな被害が出ましたが、その後の新潟の地震の際にはその教訓が生きて火災の件数は3分の1だったそうです。さらに家族の安否の確認や近所への声かけをして避難します。避難の際には玄関に避難先や連絡先を貼っていきます。

避難所へ持っていくものとしては懐中電灯、携帯用ラジオ、水、お金、着替え、洗面用具などですが、他に大事な物があります。入れ歯です。話をするにも、食べるにも、入れ歯がないと大変です。忘れないようにとのことです。

(3) 地図を使った訓練

自分の町内会や今いる場所の地図を用意します。そして自宅に赤いシールを貼ります。さらに避難所には黄色、病院には緑、スーパー・コンビニには青、そして要援護者、例えば寝たきりの方や妊婦さん、障がいを持った方がいる所にはオレンジのシールを貼っていきます。川や橋、崖、ブロックなど危険箇所には×印をつけます。一方通行、渋滞の交差点などにも印をつけて、地図を完成させます。すると町の様子がわかってきます。そして危険な箇所があれば消防や町会などと協力して安心な街づくりに役立てます。

さあ、避難することになりました。自分の避難経路をたどります。私は危険な箇所を避け、遠回りでも安全な道路を考えて、地図に線を引きました。すると講師の先生が「要援護者の方に声かけをしましたか?」と言います。私は自分のことだけを考えてしまい、社会的弱者の方のことはすっかり忘れていました。日ごろ市議とし皆さんのお役にたつようがんばりますと言っているながら、忘れてしまっていました。このDIGで訓練することで、そういったことの大切さを再確認できました。



(4) まとめ

DIGでは自分の行動を確認し、自分には何ができて、何をすべきか、地域には何が必要かを問いかけ、みんなで考える機会になるものです。参加者が地域の地図を囲んで会話をしながら避難所や危険箇所を確認することによって人と人とのつながりが密になっていきます。普段あまり目を向けなかった街に対する気づき生まれ、自分のとるべき行動を考えたり、地図上ではあるが自分がどう行動しようとするか、どう行動したらいいのかを考える意欲も出てきます。そのことにより災害時だけでなく日常的に近所との声かけや助け合いが始まると、もっとあったかく、暮らしやすい街になるのではないかと思います。ぜひ、皆さんもDIGに参加してみてください。

(会報担当者：増田 定雄 委員長)